

園芸機能開発学特論Ⅱ (2単位)

担当者氏名 杉山信男・山口正己・馬場正・雨木若慶

◆学習・教育目標

園芸機能開発学特論Ⅰと表裏一体をなす講義で、園芸産業についての新しいトピック的研究を中心に解説、講義する。園芸機能開発学特論Ⅰでは野菜、果樹を対象にした研究、トピックを紹介しているが、Ⅱでは引き続き果樹と、その後花卉についての講義を行う。園芸機能開発学特論Ⅰと併せて受講することにより、将来園芸産業に関わる企業人としての資質を育むとともに、自ら問題の所在を明らかにして研究を展開できる研究者的素養を基礎として備えることを目標とする。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

育種素材 品種開発 不和合性反応 開花制御
 草姿制御 バイオナーサリー 環境制御 園芸機能開発

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	台木育種の展開	果樹の台木の考え方、育種の展開を紹介。	果樹の台木に求められる特性、台木用品種の現状等を理解する。
2	特定課題育種	樹形改良、低低温要求性育種など、特定課題による育種法を解説。	園芸作物における遺伝的多様性の育種への応用方法を考える。
3	果樹における耐病性育種（その1）	果樹育種における耐病性育種の事例を紹介。	耐病性の基本的な考え方と樹種によるアプローチの違い、重点等を理解する。
4	果樹における耐病性育種（その2）	果樹育種における耐病性育種の事例を紹介。	耐病性の基本的な考え方と樹種によるアプローチの違い、重点等を理解する。
5	核果類における果実肥大と果実障害研究	核果類の肥大特性と果実障害発生機構の研究を紹介	具体的な作物における研究の展開例から、自らの研究展開方向を考える
6	花卉の分類と形態	膨大な植物種が関わる花卉作物の分類法と形態的特徴を解説	花卉作物の分類的にも、生態的にも多彩であり、それを整理するキーを与える。
7	光と植物生育	基本的な光環境と植物の生育反応を概説	光の定義、性質と植物の生育に及ぼす量的、質的な光の作用を理解させる。
8	植物の弱光順化反応	花卉では重要なインテリア植物で問題となる弱光下での植物の反応を概説	花卉作物、特に鉢物の品質劣化の問題を意識させる。
9	温度と植物生育	基本的な温度環境と植物の生育反応を概説	温度が関わる生理的反応を概説、温度の反応の多様性を知らせる。
10	花卉の草姿調節	高い観賞性が求められる花卉作物の草姿方法を解説	現状と将来可能性のある技術を学ぶ。

11	花卉の開花調節	花卉作物の主眼である花を着けるための調節技術を解説	現状と将来性可能のある技術を学ぶ。
12	花卉の組織培養増殖	花卉作物の苗生産で重要な地位を占める組織培養苗生産について解説	組織培養苗生産の現状、問題点、さらに将来への課題を学ぶ。
13	花卉のポストハーベスト	進展著しい切り花の品質保持技術を解説	花の品質の定義とその保持について学ぶ。
14	花卉の色と香り	花卉の形質の要素、形、色、香りのうちの色、香りについて概説	色や香りの評価法を学ぶ。
15	植物の自家不和性反応	園芸植物にみられる自家不和合性反応の解説と最近のトピック紹介	園芸作物では重要な現象である自家不和合性の整理は最近急速に解明が進んでおり、その研究経過を学ぶ。

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

観賞園芸／樋口春三編著／(社)全国農業改良普及協会(1999)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

花の園芸用語事典／小西国義／川島書店(1991)

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

レポート提出を求め、その内容で評価する。

◆その他受講上の注意事項

毎回講義資料としてプリントを配布するので、講義後、その内容の詳細について復習するのが望ましい。